参考文献５

調査業務報告書

－加藤建夫家住宅古民家移設調査業務委託－

平成 29 年 3 月

発注者　　長久手市

受注者　株式会社　中島工務店

（5）移築検討調査

近年、社会の変化に応じた文化財の保護・活用の方策として、「歴史文化基本構想」が文化庁により示されている。

文化財を核として、地域全体を歴史・文化の観点からとらえ、各種施設を統合して歴史・文化を生かした地域づくりを行っていくことを地方公共団体に提唱したものであり、地域の学生・児童の修学、国際的な観光誘致の観点からも、重要な素材の一つとなり得る。

長久手市においては、『古戦場公園再整備基本計画(案)』が策定され、国指定史跡『長久手古戦場』の歴史的価値を活かし、長久手文化の発信拠点として、様々な用途、多くの人に活用してもらえるような再整備を目指している。

その一つとして、長久手の地における、古代から現代までの居住空間文化の変遷がわかる建造物群の建設を提案したい。その時代の人々が、どのような地理・気候条件のなか、どのような衣装を身に着け、どのような住まいに暮し、どのような生活を送っていたのか。

それらを一所で体験できる施設は全国的に見ても希少であり、長久手文化の発信拠点として注目を集めると思われる。

加藤家住宅は江戸時代後期から今日に至るまで実用されており、長久手の近代を代表する住宅として非常に歴史的価値の高いものであるため、居住空間文化施設の近代ゾーンを担うために移築を推奨したい。

加藤家住宅を移築するにあたり、建物の安全性を確保することが重要である。
本建物は石端建、伝統工法による木造平屋建て、入母屋造、屋根茅葺・庇瓦葺、鳥居建形式の民家であるため、主な耐震要素は土壁である。一般的な耐震診断方法である許容応力度計算法では土壁告示による土壁の再評価があったものの、その壁量評価は依然として低い。

そこで今回は限界耐力計算法、さらに可能であれば時刻歴応答解析を用いた耐震診断を実施し、『重要文化財耐震基礎診断実施要領』による、安全確保水準である大地震時の層間変形角が 1/30 以下となるよう、必要な耐震補強を施しながら復元することで、大地震時に倒壊を免れ、生命に重大な影響を及ぼさない安全性が確保できる。

ただし、上記診断の前提として、基礎がしっかりしていることや、建物の軸組部材が健全で、仕口・継手の緩みがないことなどが挙げられるため、適切な基礎工事と、部材の修補を行う必要がある。さらに、主要軸組部である柱と横架材の仕口の長枘は腐朽・損傷が著しいため、雇枘にて復元する必要がある。